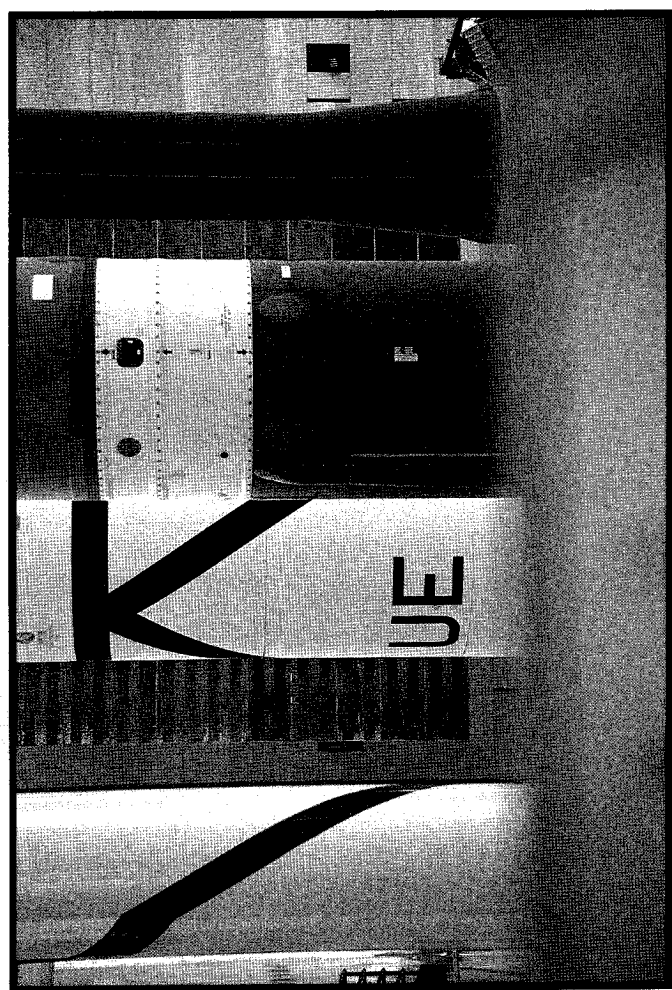


航空博物館の展示機、零戦

論争状態

- 上野俊敏
- 小倉利丸
- 田嶋泰朗
- 中島正弘
- C. ラケル
- 小形克宏
- 八木はじめ
- 藤井雅美
- 政治としての政治 ● E. マクロン
- 川野吾弘
- A. スリマン
- 金塚貞文
- 高橋直之
- 小杉貞広



があるが現代においては暴力だけでなく技術のデモンストレーションとしても使用されつつある。つまり改竄行為は為政者だけにとつてのテクニクではなくなり、例えば芸術家による発展的なテクニクとしてさえ行使されるようになったのだ。J・ボイスが一九八三年「ドクメンタ7」でロシア皇帝冠をウサギの形に鋳直したパフォーマンスは王冠という物象化された歴史を平和の象徴（「ウサギ」へと変形することによりソヴィエトの軍事力優先政策を批判したものだ）。また一九八七年ミュンスタールの野外彫刻展でJ・

クーンズが市街にある地元の歴史的人物の銅像を取りはずし、その像とそっくりなステンレス像を取りつけた作品は改竄行為自体を無化してしまう改竄行為として大変興味深いものだった。今後このようなミクロな歴史改竄が世界中で多発していくに違いない。（T2）

最新のアスルカ・イメーシングシステム
合成して歴史を組替える

「WAR」
24

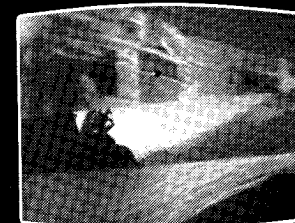
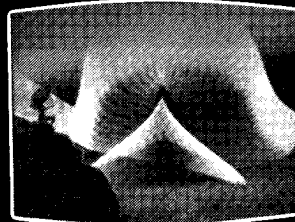
「ヴァスルカのビデオ」
最新のテクノロジーで交換

ウッディ・ヴァスルカは、七十年代には「ザ・ヴァスルカ・イメーシングシステム」というコンピュータシステムを自ら開発す

るなどして、極めてテクニカルな抽象的作品を制作していたビデオ・アーティストだったが、八十年代に入って作風をがらりと変え、二十世紀の政治的テーマをオペラティックに映像化する作業を始めた。

八三年から制作され続けいまだ完結しない「ART OF MEMORY」は、過去の戦争の記録フィルムを、最新のテクノロジーで交換、合成して、歴史の組替えを試みようとした作品で、アートとテクノロジーの高次元での合体による、現時点での一つの結論ともいえる傑作だ。（K2）

「ART OF MEMORY」ウッディ・ヴァスルカ（写真提供・SCAN）



WORD/WAR
IS
OVER?